

## 桑原地区タウンミーティング(要約)

平成25年6月9日(日曜)

【市長】 皆さんこんにちは。今日は愛媛大学農学部の講義室をお借りしておりますので、いつもと会場が違う雰囲気、私が高いところから皆さんに言うような形で恐縮ですけれども、今日は大勢の方にご参加をいただきましてありがとうございます。タウンミーティングの開催にあたりましては、桑原地区まちづくり協議会の土井会長さんをはじめ、役員の皆様方にご協力をいただきまして心から感謝を申し上げます。

さて、先ほど申し上げましたとおり、このタウンミーティングは、松山市は旧の北条市、旧の中島町と含めまして41地区に分かれます。市役所でどちらが楽かという、市役所で待っているほうが楽ですけれども、果たしてそれでいいのだろうか。我々が41地区ごとに出向かせていただいて、それぞれ地区の課題、魅力があるでしょうから聞かせていただいて、このタウンミーティングはいわゆるガス抜きのためにやっているのではありません。やるだけだとガス抜きに終わってしまうんですけど、そうではなくて聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないという方針のもと、ここで答えできることは必ずお答えをいたしますが、例えば国と絡むもの、県と絡むもの、財政的な問題があるようなものはいったん持ち帰らせていただいて、1カ月を目途に必ずその地区に答えを返すという、聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしはしないというタウンミーティングをやっております。市長の任期は1期4年、48カ月ですので、元は1カ月に一回のペースで回っていければと思っていたんですが、おかげさまで、すぐに反映できることはすぐに市政に反映をしますので、思い切って前倒しをしようということで、1巡目は2年2カ月で終わりました。桑原は2年1カ月前に開催をしております、今回2巡目の2カ所目が桑原地区という形になります。私は皆さん御存じのように一市民からこの立場に立たせていただいた人間です。皆様からよく、行政がちょっと距離があると言われます。もっと行政を身近にしたいという思いのあらわれがこのタウンミーティングですので、よろしく願いを申し上げます。さて今日は各政策課長が来ておりますけれども、私出来るだけお答えをいたしますけれども、専門的な事柄になりますと政策課長のほうで話をさせていただきます。私は出来るだけ皆さんの顔を見ながら話をしたいので起立をさせていただいて話をしますけれども、職員達は手元に細かな数字などがありますので座ったままのお話しをお許しいただいたらと思います。結びになりますけれども今日は愛媛大学の皆さん、そして東雲女子大学、短期大学の皆さん

人も参加してくださっております。90分間ですのでさすがに肩肘張っていると疲れてしまいますので、ざっくばらんな前向きな議論ができればと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【女性】 私、愛媛大学農学部の農学研究科修士課程の学生です。よろしくお願いいたします。私からの意見ですけれども、全地域まちづくり協議会と学生活動の関連強化を図ってほしいということで、例として桑原地区では、放課後学び直し教室といった取り組みの計画も進んでいるんですが、私たち大学生の中には、もっと地域に貢献したいと思っていたり、地域で自分たちがボランティア活動をもっと頑張りたいと思っている学生もいます。現に、農学部生の中にも地域活動に参加したいんだけども入口がわからないとか、きっかけがわからないという学生がたくさんいます。ですので、そういう活動を学生が行いやすい環境にさせていただけたらということで、今回意見を提案させていただきました。よろしくお願い致します。

【市長】 はいありがとうございます。私から逆に質問ですが、放課後学び直し教室、これは対象者はどんな方になりますか。

【女性】 確か小学生だったと思いますけど、学生とその地域の方が、放課後学び直しということで、それを学生主体でやろうということを計画されているようで。ちょっと私把握してないんですけど。

【市長】 わかりました。ありがとうございます。これ私のほうでまず話をさせていただいて、担当から補足とさせていただきたいんですが、これはますます広げていきたいと思っています。まず松山の特徴として4年制大学が4つ、短期大学が3つ、専門学校が22あったと思います。このように若い人がいるというのが松山の特徴です。ほかの市さんからうらやましがられるのは、4年制大学というのはどこでもあるわけではないですよ。4年制大学があると、若い学生さんがいるし、専門知識をお持ちの先生方がいらっしゃいます。ですので、こうやって大学との連携ができるのが松山の強みです。先ほど、防災マップの話させていただきましたが、愛媛大学には防災情報研究センターがありますので、矢田部龍一先生、防災の権威でいらっしゃいますけれども、入っていただいて防災マップをつくっています。学生さんたちにも避難ルートなんかをつくる時にも参加させていただきました。松山市には土曜塾という制度がありまして、これは福祉部門と教育部門が連携して、本当はお子さんも学びたいんだけど、なかなか家庭の環境から学びにくい状況は現実にある、そういう方のために学生さんに教え役になってもらって、中学校の先生で退職された方に塾長になってもらって、土曜塾という制度を設けております。そのように大学との連携というのはこれまでもやってきているんですけど、ますますや

っていきたいと思います。

【市民部長】 まちづくり協議会と大学生をつなぐための支援制度のことかと思うんですけども、現在これというのは特にはないんですけども、ご要望を受けてのこちらの新しい取り組みとして、まちづくり協議会から学生ボランティアの協力がほしいという要望があれば、各大学の社会連携部門にお取り次ぎをいたします。また、逆に地域のほうでボランティア活動がしたいという学生さんを発掘するために、例えば募集のチラシの掲示をお願いしたりとか、案内の場を設けていただくように働きかけまして、可能な限りマッチングを図りたいと考えておりますので、市民参画まちづくり課までご連絡いただいたらと思います。よろしくをお願いします。

【市長】 市民参画まちづくり課18人おります。市民参画まちづくり課が窓口になりますので、言っていただいたら、ちょっと別の案件になってきたらご案内もしますので、遠慮なく言ってもらったらと思います。

【男性】 今回は第2巡目のタウンミーティングを桑原で早めに開いていただきまして、誠にありがとうございます。私はテーマ②のまちづくりに関連してのお話、お尋ねなんですけれども、桑原も平成21年度にまちづくり協議会を設立いたしまして、毎年フリーマーケットとか防災訓練とか、全住民集まって参加してそういったことをやっております。また、おとし、福祉マップをつくったり、それからいろんな研修会もやっております。片や公民館も戦後ずっとこれまで、言ってみればまちづくりをやってきたわけです。市長部局のほうでまちづくりをやる、はじめそういう声をお出しになる前、平成17年に、松山市地域コミュニティ市民検討会議をつくられて、報告書を平成18年4月に出しておられます。それによると、公民館がやってるオンリーワン事業という、うちらでいえば、7月にやります盆踊りも兼ねてのバザーを一緒にした行事とか、10月の運動会とか11月の文化祭とかそういったオンリーワン事業はまちづくりに渡せという方向が出ております。そしておととしの2月27日にまちづくりがやってる報告会があったんですけど、愛大の南加記念ホールで。そのときに総括された藤目先生、先生はコミュニティ・アドバイザーやっておられて、松山市地域におけるまちづくり推進委員会の会長でもあります。その先生が、住民によるまちづくりが進んできている。こうなったら、官によるまちづくり、行政主体によるまちづくり、つまり公民館がやってることはもう公民館はいらんのやないかというようなことを言われたんですよ。それで先生そんなこと思われるんだったら市長さんに言うて、公民館なくすんだったら公民館条例を廃止すればいいことやから、市長さんに言われたらどうですかということをやったんです。それから去年は藤目先生が委員

長をやっております松山市地域におけるまちづくり推進委員会の検討事項を見ると、公民館はコミュニティセンターにしたらどうですかという要望も出てるといことで、そういった難儀な話を教育委員会は館長あたりにも話をおろして、こうなつとんだと言われたらいいと思うのに、教育委員会から一つも館長あたりの会議には報告ないんですよ。で、教育委員会は市長部局がやっておられるからなかなか言いにくいかなと思とりますんで、トップにおられる市長さんが、どのように考えておられるかを聞いて、それを松山市公民館連絡協議会の理事会あたりにもご報告していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

【市長】 はいわかりました。では、まちづくり協議会って学生さんは初めて聞く方もいらっしゃるでしょうね。わかりやすく説明をいたします。さっき申し上げたように松山は旧北条、旧中島と含めて41地区に分かれます。今まちづくり協議会がしっかりとできているところ、それに続く準備会がありまして、今41地区の中で14地区までまちづくり協議会、準備会までできました。このまちづくり協議会がもうできてるっていうのはすばらしいことなんです。41地区の、その地区のいいところと魅力を知っているのは、市役所の人間か、それともその地区にお住まいの方かという、その地区の魅力を一番知っているのは地元の方だと思います。わけのわからん市役所が中心になって41のまちづくりをやってしまったら、41地区全部同じようなまちができてしまうでしょう。でもその地区の魅力を活かしたまちづくりができたなら、その地区はより輝くでしょう。そうすると41の集合体の松山市はより輝くと言えます。ですのでいい組織ができたなら、なぜいい組織かっていうと、例えばある地区にワンマンな方がいて、わしのための組織をつくろうってして、そういう組織ができてしまうと、まちづくり協議会は権限と財源を、行政からお渡ししましょう。そして皆さんでまちづくりしてくださいというものなので、わしのために金使うっていう組織だったらまずいですよね。ですので地元でいい組織ができたなら財源と権限をお渡ししましょう、そして皆さんでいいまちづくりしてくださいっていうのがまちづくり協議会なんです。これが松山市の41の中で14までできました。桑原さんはもうできてます。すばらしいことです。公民館というのは、教育委員会。例えば交通とか環境とかやってるのを市長部局っていうんですけれども、教育委員会は別のところにあるんです。なぜかという、戦後、GHQが入ってきて、政治家が教育に口出しをしすぎるのはまずい、教育に直接介入できないように教育委員会という別のものをつくろうってしたからです。市長部局と教育委員会とは別です。そして今、歴史の流れとして、もうちょっと首長が教育委員会にタッ

チできるようにしていきましょうという流れにはなっています。教育委員会で子どもたちの勉強のこともするし、社会教育は公民館です。ですので公民館活動は教育委員会という話になります。今のでもう大方わかったかと思えます。じゃあ市民部長ここからまちづくり協議会と公民館の関連について。

【市民部長】 市民部の吉野と申します。先ほどは失礼しました。地域におけるまちづくり推進委員会において、まちづくり協議会、まちづくりの推進に関しての調査、研究、審議されているテーマの一つとして、公民館とまちづくり協議会との関係について、今後の役割分担や連携などが話し合われまして、その一つとして、高松市のように公民館をコミュニティセンター化してはどうかというご意見も確かに出されております。ただ本市におきましては、これまで公民館について、その公民館活動の拠点としてまちづくりを支えてきた歴史がございますので、推進委員会の中でもこうした背景を踏まえて、慎重に審議を重ねていただきまして、住民にとって最も良いまちづくり推進のための提言がなされることを私どもとしては期待しております。なお内部の話ではございますけれども、先ほどおっしゃいました公民館とまちづくり協議会との関係を考える上では、市民部局と教育委員会との話し合いも行う必要がございますので、市の中でも十分に連携を図りながらやっておりますので、公民館をなくすとかそういうことはございませんのでご理解賜りたいと思えます。よろしくお願ひします。

【男性】 失礼します。桑原7丁目の町内会です。まちづくり、先ほどの方も非常に高い目線でいろんな話していただいて、全体的にはわかるんですけど、まちづくりの基本は各町内会、自治会だと思います。各自治会が組織されてないとおっしゃったことがなかなかうまいこといかない。そこでひとつ、市長さんは細かい市役所の中身を知っておるわけではないですから、市長さんに文句言うとかではないんですけども、市民参画まちづくり課のホームページ、こう書かれとんですね。基本になる自治会活動をしているものには困るんです。というのは、「町内会には加入しなければならぬのですか」という質問に対して、「町内会（または自治会）というのは、近隣に暮らす住民の方々がコミュニティ活動を通じて親睦を図ったり相互に助け合ったり地域財産を共同管理するためにつくった組織で、独自に運営されています。」これいいですね。「防災、防犯活動やごみステーション管理など日常の暮らしを支える共益活動は町内会を中心として行われることが多く」、事実そうです。「ごみ置き場の清掃その他また地域コミュニティを活性化するために市としても住民の方々が町内会へ加入することは望ましいと考えています。」これ非常にいいですね。その後な

んです。「ただし、加入するかしないか（町内会費を払うかどうかも含めて）は全くの任意（自由）であり、行政はもちろん地域のだれからも強制されるものではありません。」最後にこういう書き方されると、それなら町内会入らんでええわいと、これだれしも思いますよね。文章のつくり方、起承転結で最後は結論ですから。だから僕は市民参画まちづくり課へ行って話をしたんですよ。文章の書き方が悪いと。確かに憲法でいえば強制されるものではないことは明らかです。だから最後に書かれるとこれが結論じゃないですかと。だから直してくれということをやったんです、文章を。ここに書いてあるのを削除せえとは言わんけん順番を変えて、ただしというのを前にもってきて、結論は望ましいいうふうにもってきてほしいと言ったんです。それに関して担当の方おられましたら、回答をお願いしたいと思います。以上です。

【市民部長】 あ、まことにおっしゃるとおりだと思います。まことに不勉強で、このところまでは目が通ってなかったのが申しわけないところでございますが、内容を省けというご指示ではなくて、考え方とか、一番最後にきた文章によっていろいろ変わりますので、そこを、内容も保持しつつおっしゃるように変えることができないか、帰って検討しますのでよろしくお願いいたします。

【男性】 桑原1丁目の町内会です。私は、まちづくり協議会全体についてお伺いしたいのですが、市長さんからもお話がありましたように、桑原には桑原地区まちづくり協議会というのが4年ぐらい前にできて、確か市内でも2番目か3番目か非常に早くできた。今、松山市内全体に広がっているというんですが、実は桑原地区には、桑原地区といいますが、もうちょっと狭い、桑原地区というのは昔の温泉郡桑原村をいっているんですが、その中に桑原という字が行政区域的には1丁目から7丁目までの地域に分かれておりまして、それぞれに町内会がございます。桑原1丁目町内会、桑原2丁目町内会、7丁目まであるんですね。それだけではなかなか行事も十分にできないので1丁目から7丁目までを一つにして、桑原連合町内会をつくっております。これですとこの20年間やってきたんです。そして、運営費はもちろん町内会費の一部を連合に持っていきまして、連合としても運営費はその町内会費で賄っていくと。そこへ突如、4年前にまちづくり協議会ができました。今私の立場からいうと、桑原1丁目町内会、桑原連合町内会、桑原地区まちづくり協議会、3つあるんです。ということは、年度当初はいろいろ会議がございます、役員会または理事会とか総会、3つもあると、だいたい町内会長はまちづくり協議会の理事も兼ねている人が多いんですが、その理事会、総会もかけると6

つも会議に出ないといけない。なんで、3つも理事会がないといけないんだらうかと。私も不思議に思っていますいろいろ聞きましたら、やっとわかりました。どっちかというと松山市が主導されて地域と相談されて、まちづくり協議会をつくっていきうようになった。なぜそんなものがあるのか。私が質問したかったのは、先ほど市長さんは地域に財源と権限を渡すんだと。これちょっと私は問題あると思いますよ。

【市長】 どのあたりがですか。

【男性】 御存じのとおり、地方自治というものは憲法で守られた我々の一つの権限というか、財産です。それを支えているのが地方自治法です。我々にもっとも身近な地方自治体といえば松山市です。我々は松山市民です。松山市あれば、隅々まで、例えばこの間北条市と合併しましたが、隅々まで松山市が管理せないけないんですよ。なぜなら、我々は市長を直接投票で選んでおります。そして、それでも安心できんから、監督してもらうために市議員も選んでおります。これも直接選挙です。市長を監視してもらってます。そして我々は住民税という多額のお金を払って、これ税金ですよ。町内会費と違いますよ。税金を払わないと罰せられます。町内会費は全然罰せられることはありません。次元が違うんです。そして我々の行政をすべて松山市に任せております。それは県もありますけど一番身近なのは市町村です。松山市です。松山市が隅々まで見るべきですよ。それが憲法の言っている地方自治ですから。町内会なんていう言葉はどこにあります。民法にもない。最近地方自治法にちょこっと出てきましたけど、これは地縁団体ということで出てきました。これは、地縁団体が申請して認められて初めての団体ですから。そういう意味では町内会、自治会全くの法的規定はありませんよ。全くの任意団体です。私はいつも言ってるんですよ。同窓会みたいなもんだと。これは、行政がなかなかそこまでやってくれんから、まあ隣近所が主になりますけど、知っている同士でお金を出し合って、身近な事をそのお金でやっていこうと。そこにね、市が財源と権限を渡すということは、一種の権限移譲であって、地方自治法に引っかかるんじゃないかと思います。もっといえば、責任放棄ですよ。まちづくり協議会をつくって何を狙っているのか松山市は。噂は選挙対策という声もあります。私は噂ですぎないと私は思いたい。そういう誤解もある。それから、もう一つは、市にお金がなくなったから、まちづくり協議会に一部のことをやらす。いわば松山市の下請けに使いたいんだという声もある。しかし、桑原地区まちづくり協議会に年間150万の金を市が出しております。これが全部41カ所になればそれだけお金が要ります。果たして財源節約になるんでしょうか。そのことも含めて、もう一回きちっとま

ちづくり協議会の狙いというのをお願いします。

【市長】 はい、今のことについて端的にお話しできますか。端的に話ができない場合は、別の機会を設けさせていただくとか、皆さんほかに質問したい方もいらっしゃると思いますので、市民部長お願いします。

【市民部長】 市民部の吉野です。よろしくお願いいたします。ちょっと今の問題は、基本的な問題ですし、深く掘り下げるところもあろうかと思えますので、まことに申しわけありませんが、別の機会を設けさせていただいたらと思うんですけど、いかがでしょうか。

【男性】 できたら文書でお願いいたします。

【市長】 もしよかったら文書だと一方通行になりますので、お話しさせていただく機会を設けさせていただくほうがよろしいかと思えます。

【男性】 はい、ありがとうございます。

【市民部長】 よろしくお願いいたします。

【市長】 あの我々のこういう方針でやっているんだというの、また説明させていただいたらと思えますので、できたら一方的でない、話をさせていただく機会を設けさせてもらったらと思えます。はい。

【男性】 いや、あのちょっと。これは噂だと言いましたよね。あの選挙対策の。それを馬鹿なことを言うなという顔をされとったんですよ。それならもう一回、まちづくり協議会の目的をきちんと説明してください。

【市長】 また別の機会に。さまざま質問したい方もいらっしゃると思いますので、また別の機会を設けさせてください。

【男性】 淡路ヶ峠遊歩道整備管理協議会、通称整管協です。よろしくお願いいたします。会が始まる前に入口で何部か愛媛新聞のポケット版を差し上げましたが、その見開き2ページのところに展望台のパノラマのこういうものがついたんですが、前回淡路ヶ峠の質問から大分変わったところもあります。名前を、市長が上げられたのが青い空坊っちゃんコースだと思います。第一鉄塔、第二鉄塔通られましたよね。それと、その次にもうちょっと奥に入りまして、砂防ダムがあるところから第一コースに戻りますが、ガンバル赤シャツコース。それからその奥に地権者から土地を借り受けまして、機械で削り土のうを積みとか、駐車場を約10台前後とまれるようになりました。そこから登りますのが、ゆったりマドンナコース、今のところこのゆったりマドンナコースが一番楽ちんで歩けますので、今日も月一の作業を朝から霧雨が降る中やってきたんですが、おやじの会と整管協で草刈り、それから登山道の途中にロープも張っておりますのでその確認、それと私が担当しております桜の肥料やり、この肥料やりを4年ほど前から始めまして、かなり大きくなってます。それまで淡路ヶ峠は、



全然肥料がないので桜なんか植えてもあかんよと言われてたんですが、今年の3月で遂に1,000本になりました。前回のときに670本という報告がありましたので、2年間で300本超えて1,000本。記念の植樹を11月に桑原中学校の校庭に1本大きなのを植える予定です。そこで、着実におやじの会と整管協の役員等で道をつけたりトイレも置いたり、雑草、これが一番大変なんですけど肥料やり、それとお願いが2点だけありまして、俳句ポストとスタンド台みたいなのをつけたらどうぞと整管協の会長が観光・国際交流課にこれからお願いをしに行つて、俳句ポストと、まあスタンプ台は一緒になるかどうかわかりませんが、あともう一つ、登られる方が今日も4組いましたが、70代、80代のご夫婦とか多いんですよ。で、固定式のベンチが欲しいなあ。昨年ですか、おやじの会の仲間が固定できるベンチを持ってきまして、結構みんなそこで休んでらっしゃいます。そうすると座りながら、眺望も見ながらお弁当も食べられると。以前に比べてごみはほとんどございませぬ。今日は私ペットボトル1本拾いましたけれど、それだけでした。固定式のベンチはどこに尋ねたらいいのかをお願いとしてこの話は終わります。よろしくお願ひします。

【市長】 はい、わかりました。じゃあ私の方から。これまで松山市は坂の上の雲のまちづくりをやってきました。NHKのスペシャルドラマ、平成21年・22年・23年と放送されましたけども、元々は司馬遼太郎さんの坂の上の雲が松山が舞台だということ。坂の上の雲のまちづくりの後、私が継承発展させる、たからみがきのまちづくりをやっております。これは、地方に住んでると自分のまちには何もない、つまらんいうて出ていく方がいらっしゃいます。また自分のところを卑下する方がいらっしゃいますけど、そうじゃなくて、地元には宝はあるんです。この桑原にも宝はあるんです。冒頭に申しあげました淡路ヶ峠も桑原の宝だと思います。宝を正しい目で、宝と捉えることがまず大事です。宝探しはこれからはしていくんですけど、これからの時代は宝を、行政だけじゃなくて市民の皆さんと一緒に磨くことが大事です。ですので、たからみがきのまちづくりをしております。地元の皆さんが頑張つてくださっているんだつたら、行政としてもサポートしようといういろいろやっておりまして、平成24年には「地域の宝みがきサポート事業補助金」をつくりました。加えて、平成25年には、「松山市美しい街並みと賑わい創出事業補助金」もつくりましたので、有効に活用していただいたらと思います。まちづくり協議会せつかくできてますんで、こういったのをまた使つていただいたらと思います。ベンチのことは都市政策課長。お願ひします。

【都市政策課長】 都市政策課長の松本です。大変貴重なご意見ありがと

うございます。私も10日ほど前に初めて淡路ヶ峠を登らせていただきました。ガンバル赤シャツコース、なかなかきつかったですけれども、この景色は本当に素晴らしい。松山城、総合公園綺麗に見えました。で、今のご意見ですけれども、最初に公園緑地課で整備もさせていただきましたので、今市長が言いましたように、都市デザイン課で「松山市美しい街並みと賑わい創出事業補助金」も今年度しております。私のほうで、関係課にお話しさせていただいて、対応させていただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

【市長】 はい、松本課長のほうで受けたということですのでよろしいですね。よろしいですか。はい、どうぞ。

【都市ブランド課長】 都市ブランド課長の矢野でございます。先ほどの俳句ポストにつきましては、上にあずまやとか、展望台があると思うんですけど、設置場所、スタンプ台いろいろ置く箇所がどこがいいのかとか、ということがありますので、観光・国際交流課が担当課になりますので、持ち帰らせていただきまして、一度現地を確認させていただいて、またご相談をさせていただいたらと思いますので、よろしくお願ひします。

【市長】 できたら大学の若い方にも、私、登っていただきたいと思うんですけど、例えば桑原中学から歩いたら2、30分ぐらいでしたっけ。

【男性】 30分。

【市長】 30分ぐらい。靴はそれなりの靴を履いて行ってもらって、女の子が歩くには防犯面は大丈夫ですかね。

【男性】 大丈夫。

【市長】 特に、大丈夫ですかね。はい、ぜひあがってもらったらと思います。あの、お城山から見る風景とはまた違って、総合公園から見る風景とは違って、松山を東から見る、お城山、総合公園、海の方の景色が見られますから、歩いて登らないといけないので、感激はひとしおだと思いますのでぜひ、伊藤博文さんゆかりのところですから、お願ひします。

【男性】 急なところはロープ張ってますから。

【市長】 また、地区の方とお話しして、ぜひ行ってもらったらと思います。

【女性】 失礼します。正円寺の町内会の役員をしております。それで公民館のことについてお聞きしたいんですけど。桑原地区でも一番古い分館だと思うんですよ、正円寺分館。ここちょっとあがっていったところですけど。耐震のことを一番心配しているんですけど。建替がちょっと事情があってできないんです。それでどのようにしたら、避難場所としては高齢者も多いので公民館がいいと思うんですけど。その公民館が一番先につぶ

れるんじゃないかと心配しているんですけど。建替えるお金としては、積立をしていますのでできるんですけど、土地の所有とか諸事情がありまして、建替ができないんです。それも早く10年以内ぐらいにはしたいと思っているんですけど、その間に地震でもきたらどうなるかと思って心配しているので、市として何かしていただけることがあるかと思って質問したんですけど、よろしくをお願いします。

【市長】 正円寺分館。わかりました、ちょっと確認ですけども、桑原公民館本館は来年度耐震化工事、トイレの改修、段差の改修などのバリアフリー化を予定しております。正円寺分館については。

【生涯学習政策課長】 生涯学習政策課の津田と申します。公民館、先ほど、市長から話がありましたが、まず松山市教育委員会としましては本館、これがまだ全部整っておりませんので、それをまず完成しようという計画にあげております。そうしたところが終わってから、分館の老朽化等における耐震化、建替え等含めて必要になってこようかと思っておりますので、その段階で検討させていただくということで。現時点で、41の公民館のうち35か6しかまだできていないんです。今年度も2つ、3つ、37ぐらいまでは耐震化を進めたいと思っておりますのでそういう状況だけ報告させていただきます。

【女性】 築47年の木造ですから、早く何とかしてください。

【市長】 わかりました。公民館分館が300ほどだったですかね、松山市。先ほど私松山市は41地区に分かれると申し上げたんですけども、その41地区に公民館本館があります。そして、桑原も本館だけじゃなくて分館もありますので、松山市全体でいうと、その分館はおよそ300あります。ですので、まずは本館が一番人が集まる場所ですから、まず本館の改修、耐震化を先にさせていただいてその後、分館となっております。市長いっぺんにやったらええやないか、これももう当たりはずれのない公共工事じゃないかと言われる方もいらっしゃるかもしれませんが、ちょっと財政のことに触れさせていただきます。皆さんもよく御存じだと思いますけど、ここ数年日本全体の景気も良くない、当然税収は伸び悩みます。皆さんよく目にされるもので、ごみの収集にしても、松山市が委託も含めてやっておりますけど、ごみを収集しようと思ったらごみを収集する人もいる、ごみ収集車もいます。何でやっているかという税金でやらせていただいております。道路をつくるのも国道、県道、市道とありますけども、市道は市のお金でつくらせていただいております。つくったらそれで終わりではありません。補修もしなければなりません。そのように、やはり喜んで税金払いとうてたまらんという人はいないと思います。でも、まちづく

りをするうえでは税金は必要なものです。でも今、日本の経済もよろしくないなので、税収は伸び悩んでおります。皆さん御存じのように、今、国の借金は1千兆円と言われております。国から地方に、地方交付税交付金とか国庫支出金という形でお金が回ってきますけど、大元の国が1千兆円の借金を抱えているんですから、地方に回ってくるお金が増えるとはとてもとても考えにくい。で、高齢化してきてますから、社会保障費、福祉に係るお金は増加の一途をたどっています。そして人口減少しています。つまりお子さんの数が少なくなってますから、将来働いて、税金を払ってくれる方が少なくなるっていうのは目に見えている。重ねて言いますが、少子高齢化である。本当に大変な時代を迎えております。松山では健全な財政運営のガイドラインをつくってこれを堅持してやっておりますので、選択して集中する。削るべきは削るが、やるべきことはやるというスタンスのもとやってきまして、今のところはほかの都市と比較すると、恵まれている状況にあると思っております。また、このタウンミーティングでいただいたご意見も、健全な財政を保っておりますので、数多く実現できているかと。小学校通学路の緊急合同点検とか、鳥獣被害防止対策を広げること、学校給食の地産地消、食育の推進というのも、このタウンミーティングから生まれた取り組みです。これからのことをいうと、国・県の状況を考えると、油断できる状況では決してありません。また、やらなければいけない課題もあります。まず松山外環状道路。松山インターチェンジから松山空港までの時間、30分以上かかります。こんなところは全国で調べたら、わずか4つしかありません。地元のインターチェンジと空港の間が30分以上かかる場所、松山と北海道の3地区でした。広大な北海道と松山が同じ状況になっているのはなぜか。松山インターチェンジ降りたら、わざわざ、市内に入ってこんでもええのに、朝生田・天山のほうに入ってきて、環状線で回って空港通りにいく。斜めにつけちゃうともっと早いので30分を10分に縮めるべく、松山外環状線を坊っちゃんスタジアムのちょうどあの辺りにつくっております。五つのメリットがありますのでつくっております。また、JR松山駅、大変古くなっております。JR松山駅の周辺整備。これもいくつかの利点がありますので、県と市で共同してやっております。水問題。毎年松山はちょっと雨が降らなかったら今年も取水制限がされるんじゃないかというぐらい、水問題、これもあります。で、全国的にも話題になっている、老朽化した橋、トンネル、道路。そしてコミュニティセンターももう30年ぐらい経ってきています。これをどうするのか。道後温泉本館も耐震化をしなければなりません。やらなければいけない課題はいくつもあります。ですので、私タウンミーティングさ

せていただいて、さまざま皆さんから要望をいただきます。私も人間ですから、わかりました、それやりましょう、わかりました、それやりましょう、わかりました、これもやりましょうと言えたほうが、私としても楽です。でもそれを大変厳しい財政の中でやってしまうと、これは将来の子どもや孫にツケを残すことにほかならない。市長の人気取りにはいいかもしれませんが、よくよく考えないと。選択と集中。削るべきは削るが、やるべきものはやる。このスタンスでやっとなないと、将来の子ども達にツケを残すことにほかならないので、なかなか皆さんの声に即座に対応する、できることはやりますけども、全て対応するという状況じゃないことをご理解いただけたらと思います。ちょっと長くなりましたが。

【女性】 すみません、失礼します。私は松山東雲女子大学の学生です。ここに東雲女子大学、学生が来ているんですけど。東雲女子大学というのは県内の学生が多いのと、周りに小学校や幼稚園がたくさんあるし、東雲にも付属幼稚園があるんですけども、周辺の道路、通学路ですけど、歩道が狭いっていうのが私たちの正直な印象です。あそこは二車線で交通量も多いし、周辺にスーパーや住宅が密集している地区ですけど、それに比べて歩道が狭いのと、学生の通学手段が自転車と原付が主になっているんですけど、自転車と原付が通学するにはちょっと歩道等が狭いのと、東雲の短大のほうのバス停があるんですけども、通学の時間になると、バス停があつてバスが前にとまるんです。そこで車等も滞りますし、原付等も通りにくい状況があると思うんですけども、そこらへんが私たち学生から出た意見です。歩道等を広くしていただくのと、小学生も通学路として通っているところもありますし、子ども達も通るので、歩道等をもう少し舗装というか、改善していただけたらと思います。

【都市政策課長】 都市政策課の松本です。今のご意見、私も先ほど再確認のため東雲女子大学の前の道通ってきました。桑原校区には中村桑原線、樽味溝辺線とって東西の大きな道路には両側に歩道がありますので、安全に行けますけれども、今おっしゃった道路については湯渡橋から大学へ行く道、非常に車も多いし、自転車、歩行者も多いです。おっしゃるとおりだと思います。その中で道路を広げるとなると、用地補償費、家が全部両側に建っておりますので、なかなか難しいところはあります。その中で安全施設、どういうふうにするかということで、例えば白線等の塗り替えとか、できるところから、現実的にできるところから対応して、警察とか交通安全協会とも協力して進めたいと思いますので、ご理解いただけたらと思います。

【市長】 皆さん松山市役所のホームページ開くことがあれば見ていただ

いたらと思うんですが、去年の4月に京都で大変不幸な子どもが巻き込まれる事故がありまして、昨年夏に保護者の方々も参加していただいて、通学路の一斉点検をさせていただきました。昔の行政は、やることが決まってから発表するんです。途中経過でもいいから出しましょう、皆さんにちゃんと説明しないと市民の皆さんは納得してくれないし、動いてもくれない、途中でもいいから出しましょうって、去年の12月から小学校ごとに通学路点検した模様を全部出してあります。また皆さんお家帰って、桑原小学校、ご近所の状況が出ておりますので、見ていただいたらと思います。赤はこういうような対応をとらせてもらいました、横断歩道を塗り直しましたとか書いてますけども。また見ていただいたらと思います。途中でもいいから出す、皆さんにできるだけ説明するというので、今市役所動いておりますので、また見ていただいたらと思います。よろしくお願ひします

【男性】 こんにちは。畑寺分館です。よろしくお願ひします。わからないので教えていただけたらと思います。公民館、分館自体もお金がないんですが、お年寄りはいっぱい増えてまいりました。一応分館としても、トイレを増設したんですが、市のほうに諮ったら何年間か先になるだろうということだったんで、自己財源でやったんですけど、お年寄りのトイレだけはなかなか待ってくれぬので、急遽そういう形でやらせていただいたんですが、後から申請しても補助はいただけるものでしょうか。それともう一点。財源の話された後で申しわけないんですけど、有志がエアコンとか扇風機をつけていただいております。故障した際は備品ではございませんので、また自己財源で修理が必要なのかどうか。よろしくお願ひします。

【生涯政策課長】 教育委員会の津田でございます。まず、一点目ですが、お話は重々理解できるんですけど、後からの補助申請というのはまずできなにご理解いただければと思います。取り付けておられます、クーラーとかはどういう形で取り付けたものか、また教育委員会の地域学習振興課が窓口になろうかと思うんですけども、その形態によりまして確認させていただきたいと思いますので、すみませんがこの場でちょっとお答えできませんが、のちほどまたよろしくお願ひします。

【市長】 3時半ですぐ帰るわけではないので、もし、あの今日例えば先ほど道路の話が出ましたけれども、道路の担当、都市政策課長ですので、もし道路のここがちょっと危ないとか気になる場所があったら、地図で指し示していただいても結構です。3時半ですぐに帰るわけではないので、今の公民館の話は、また津田のほうに言っていただければ、よろしくお願ひします。私も先ほど申し上げたように、一市民からこの立場をいた

だいた人間だと申し上げましたけども、皆さんに市役所とうまく付き合っていたらと思います。これからのまちづくり、よく市民協働のまちづくりと言います。その中で、できるだけ行政を近い存在にしていきたいと申し上げましたけども、市民と行政と一緒に手を携えてやっていかないと、車と一緒にです。皆さんの車だけが一生懸命回って、行政の車が回らんかったら、同じところ回るだけですよね。一方、行政の車が一生懸命回るとるけども、民間の車が回らんかったら、同じところをくるくる回るだけ。行政と市民と一緒に回ると、物ごとはよく進んでいくと思います。ですので、うまく市役所を使っていたらと思います。一般論として聞いていただいたらと思うんですけど、市役所に相談していただいたら、あ、ちょっとこれはできないんですけど、こういう補助メニューがあるんですよとか、こういうやり方もあるんですよというのをお伝えすることができます。また、道の関係だったら、皆さんここが国道でここが県道でここが市道でってわからないですよ。農道なんかもあります。どこがどこってわからないですよ。言っていただいたら、市から県につなぐことも、国につなぐこともやっていますので、遠慮なく言っていただいたら。市役所というのは、市民の皆さんの役に立つ所で市役所じゃなきゃいけないとよく言っています。皆さんに役に立って何ぼだと思っていますので、どうぞ遠慮なく言っていただいたら、いろいろご紹介できることもあると思いますので、うまく付き合っていたらと思います。もし対応が悪い人間がおりましたら、市長へのわがまちメールが、市役所のトップページに市長へのわがまちメールという制度がありますので、それで言っていただいたら、ガンと雷を落とすこともありますので、遠慮なく言っていただいたら。今そんなことはないと思いますが、もしそういうことがありましたら、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 民生委員です。せっかくテーマが出ておりますので、この地域の子育てと大学の連携、ええ問題であります。これについても意見交換をしてほしいんですが。例えば子育てにおける問題点、現状とかどうやってほしいとかどうやったほうがええとか、大学生もおいでますので大学の学生としてはどういうことがしたいのか、そのようなことを、これに関する意見交換を、タウンミーティングのせっかくテーマ出ておりますのに向に話出ませんので、もう時間も大分経ちますのでまずテーマに沿っての意見交換、市への要望とかいうことをお願いしたいんですが。女性の方もおいでますので母親としての桑原地区の子育てという問題あるのか、そこらも話出していただいてせっかく女子学生も来ておりますので、大学の保育科もありましょうし連携も話していただけると思うんですがどうでし

ようか。

【市長】 はい、保育そうですね、東雲さんなんて保育非常に強いですから保育との連携については何か。高橋課長から何かお話しできることはありますか。もう我々としてはもう本当しっかり、大学さんあるんですから連携していきたいという思いです。

【保健福祉政策課長】 東雲女子大学にも子育て関係もありますし、今保育関係で一番課題になってますのは、保育の待機児童がおられるということで、まず松山市では平成22年度から24年度までの3年間で民間で新設で6園、あと定員拡大に伴う増改築で2園実施しました。そのことにより500名の定員増を行いました。それとか家庭的保育事業、ニーズの高い2歳児までを対象として定員30名増やす取り組みをしております。一番保育関係で問題になるのは待機児童対策ということでそういう取り組みをさせていただいております。

【市長】 土曜塾の話をしたように例えば中学生で学びたい子が土曜日塾に参加するという土曜塾。此花町の青少年センターの事例をご紹介したんですけど、もしお手すきだったら子育て手伝いたいと思ったら、そういう勉強されとる、そういう気持ちを持ってもらえるんだったらすごくうれしいことだと思いますし、子育て、待機児童のことでいうと、ちょっと難しいところがあるんです。今、平成22年度から24年度で500名定員を増やしましたっていうのを申し上げたんですけど、まだ松山は待機児童が残念ながらいるんです。ほんなら市長どんどん保育園建てたらいいがね、これもまさに有効な公共工事って言われるかもしれませんが、実は国の大きな流れがありまして、平成24年の8月に子ども子育て関連3法が成立しました。平成27年度から本格実施です。国でどんと決めてやりましょうっていうことです。で我々は一番気をつけないといけないのは厳しい財政ですから、市がどんどん例えば保育園つくっちゃう。保育園は今定員より多くの人が行きたいと思ってます。逆に幼稚園は定員割れをしています。そういう中で保育園と幼稚園を統合して子ども園という動きがあるんです、ですから国の動きをよく見ながらやっていかないと二重投資になってしまいます。厳しい財政の中でそれは避けたい。でもたちまちお子さんっていうのは大きくなってしまいますから、市立の保育園でスペースの大きいところがあります。今の補正予算に出して議会の皆さんに今審議させていただいてるところですけども、プレハブの保育所を2カ所設置させる動きで今審議いただいておりますので、だから何もしないわけではなくて、国の動きもみながら待機児童対策は進めている状況です。

【女性】 桑原中学校2年生に子どもを持ちますPTAの役員をしております。



ます。我が桑原中学校は先ほどからずっとありますように淡路ヶ峠のふもとにあります。拓南中学校と分かれて創設されて今年で30周年を迎えます。東京のほうではディズニーランドが30周年ということでたくさんのいろんなイベントも計画されているようですけれど、私たちPTAも桑原中学校の30周年に向けていろいろイベントを計画しているところです。先ほどおやじの会の方が言われたように1,000本目の桜を植えようとか、そういったことも含めて。そこで要望ですが、具体的には11月3日文化の日に私たちの記念式典を計画しております。そこでぜひとも市長にも来ていただいて祝辞もいただいて、子どもたちと私たち保護者と一緒に桑原中学校30周年という節目を、喜びを分かち合いたいと要望、大変お忙しいとは思いますが、ぜひご検討いただければと思います。お願いします。

【市長】 わかりました。もう体さえ空いていれば、はい。

【男性】 失礼します。まちづくり事務局です。本日この会場も大学との連携の一環としてお借りをしております。当然エアコン代もただで皆さん涼しい思いをしておりますが、こういう活動もまちづくりができて初めて始まっていった一つかなと思います。その中で一つ気がかりな点があるのでご確認をしたらと思います。この樽味地区があります愛媛大学の農学部、お隣の付属高校は避難場所に設定をされております。ただしこの愛大のほうは避難場所に設定をされておられません。境もありませんので一般住民の皆様は避難されてきても愛大の付属高校と大学の境でのけじめはついていないと普通に考えると避難場所という想定をされておるのではないかと思います。また災害が起こりますと、特にこの農学部は留学生もたくさん来られております。ですから地域とこういう大学を基地局とした学びの場所が避難場所になってないということは、学生たちの行き場所も当然ないことになるので、将来的なことを考えますと東南海大地震が起こった場合に対する学生の立場、地域とのやりとりとかどのようにしていけばいいのかというのが、今後の課題になってくるのではないかと思いますので、その点について松山市のほうで何かいい方向性があれば教えていただいたらと思います。

【消防局総務課長】 消防局総務課の中矢でございます。ここが避難所になってないことは事実でございます。先ほど市長も申しましたように、ただいま松山市で地域防災計画の見直しを行っておりまして、その中で避難所についても市内全体で見直しを図っております。ご指摘のとおり一体的な利用は望ましいと考えられますので、本日の貴重なご意見を参考にさせていただきます。大学側との協議等も必要になりますけれども、指定に向け

て検討してまいりたいと思っております。

【市長】 私からちょっとお願いがあります。この桑原地区は留学生の方も数多く来られてると思います。やっぱり地震への備えというのはしておかなければならない。東日本大震災を思いおこしていただいたらおわかりのように、あれだけの災害があれだけのエリアで起こってしまうと消防職員だけですべて対応することは事実上無理です。今、三層構造、消防職員、消防団員、おかげさまで消防団員は今四国で一番の数を誇っています。女性の視点は特に大事ですけども、女性消防団員は日本で一番多い数字を誇っています松山は。もう一つ、防災士、防災士は松山おかげさまで日本で一番多い数字を誇っています。いろいろ安全の取り組みやってきましたけども、この言葉できたら覚えてください。自助、共助、公助。自分で助ける自分の身を自分で助ける。それと共助、共に助ける。そして公助、公が助ける。いったら消防が助けるとか行政が助けるとか。で、すべて行政がお助けすることができたらいいと思いますが、実際あれだけの災害が大きくなエリアで起こってしまうとそれは無理です。残念ながら。で、日ごろから皆さん顔を合わせてもらっていると、あそこのおじいちゃん、おばあちゃんの姿が見えんけど一人でいるんじゃないかなろうかということで、日ごろからコミュニティ活動を積極的にやっておくことがいざという災害のときには大きな力を発揮するんです。防犯でもそうです、子育てでもそうです、介護もそうです。日ごろからの繋がりがあるかどうかで、これからの世の中うまく回っていくかが変わってきます。コミュニティです。コミュニティを大事にさせていただきたい。留学生もできたら顔合わせてもらっているとあの子の姿が見えんな、いざという時にできれば交流をしていただければ、地元で交流をしていただければありがたいと思いますし、じきに留学生の方は自国に帰られます。日本のことを懐かしく思うでしょう、桑原のことを懐かしく思うでしょう。そういう存在でありますのでできれば地区で留学生の方との交流もしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

【男性】 あの今の市長のお話で、ちょうど異文化交流というのはまちづくりも昨年から進めておりまして、東雲女子大学さんの韓国、中国の方、愛媛大学だと東南アジアの留学生の皆さんとお食事会という異文化交流を桑原婦人会のご協力を得ましてまちづくりで進めております。やっとな留学生との意見交流もできただけかなと思いますので付け加えときます。

【男性】 畑寺中村線と東環状線の交差点、東本町になると思うんですが、東環状線ができるまではスムーズに拓中通りの前へ車流れておったんですが、あれができてから枝松の交差点との距離が近いために左回りの車が一台あれば全然車が動きません。100メートル以上も渋滞します。これ

は以前市議員さんを通じて市のほうへお願いしましたが何事も改善していただくことができませんでした。それで前進できない車は信号の手前の路地へ入ろうとして右側の路線を進んで左側に並んだる車を追い越して左曲がり、右曲がりしております。そこでいつも交通事故が起こっております。この点、信号のところの、具体的に言いますと廃車置き場がありますが、あの辺り一車線増やしていただいて直進車がまっすぐ通るようにしていただけないかと思ひまして、前々から地域の皆さん、畑寺の役員さんとともにいろいろとお願いをしてきたんですが、何か具体的な改善をしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

【都市政策課長】 場所もまた確認させていただいて、信号の長さの関係とか警察との協議も必要になりますので、どういう対応ができるかは持ち帰らしていただいて検討させていただきたいと思います。

【女性】 桑原小学校PTAです。先ほどから道路の話、また学生さんのお話とかぶるところがあるんですけど、湯渡橋から短大に向かって走っている通り、朝は通学路として利用されているために午前7時から8時半だったと思うんですが時間を指定しての一方通行になっているんですけども、点滅信号のところで旗当番をする際にいつも気になるのが逆走車が非常に多いことです。自動車の逆走も非常に多いのとあと原付などの単車も多い。また、子どもたちが必ず赤信号でとまって待っている横で大人が信号を無視して道路を渡るとか、なるべく気づいた点はその場で声をかけるなどするんですけども、車やバイクに関しては自分たち子どもたちの身を守るという観点からも飛び出していくわけにもいかないので、できたらこれは警察の管轄になるかとは思ひうんですけどもご指導いただけたら非常にありがたいと思ひます。

【都市政策課長】 ご意見ありがとうございます。まず時間帯の一方通行がわからない方、これは桑原地区だけでなくそういうケースよくあります。一方通行になるんですよっていうのをよくわかるようにする方法が一つと、基本はルールを守ってもらう、マナーをちゃんとしてもらうというところになってきますので、いまおっしゃられたように警察の方、交通安全協会の方、市の総合交通課を含めて対応を検討させていただいたらと思ひます。

【市長】 桑原は東署ですかね、担当は。東署の方にもまた言っときましよう。あと一問くらい。できれば初めての方でお願いできればと思ひます。まだ言っていない方。いらっしゃるでしょうか、いらっしゃらないですかね。

【男性】 畑寺1丁目に住んでいます。ちょっと緊張しそうなんですけど手短に言いますと、先ほど市長も言われとった市職員もって地域づくりや

こういうまちづくりにも、もっと関わってもらったらと思うんですよ。それで近所の人と顔も知れたらいろんな特典もあると思いますし、そういうことを一人じゃないんですけど市職員に持ってもらったらと思うんですけどその辺はどうでしょうね。

【市長】 そのご意見ごもっともだと思います。確かに市の職員に言っているのが、皆さんが地域に出かけることによって行政マンとしての知識をお伝えすることもできるし、共に汗を流すことによって顔見知りにもなっていい循環にもなっていくんでできるだけ出てくださいという話をしております。また、まちづくり協議会も一緒に職員が出てサポートをする形もとってまして、そういうことも言っております。ただ強制まではできないのが、職員もやはり土曜日、日曜日も、今日ここに出ております政策課長達も今日は日曜日勤務になっております。今日勉強に来ておりますのも自主的に日曜日来ております。育児をしている職員もおります。介護をしている職員もおります。そういう職員もおりますので強制はできないんですけど、できるだけ今おっしゃったように、皆さんと一緒に動くことはすごくプラスがありますからできたら出てくださいというのは申し上げるところです。強制という形にならないのはご理解いただいたらと思います。よろしく申し上げます。

【市長】 皆様長時間にわたってお付き合いいただきましてありがとうございました。今日、まちづくり協議会の話が出ましたけれども、これは非常にレベルの高い話ができているのではないかと思います。皆様方が自分たちのまちづくりを真剣に考えくださってるから起こってくる議論ですので、今日はこのまちづくり協議会の話、公民館の話というのは非常に高いレベルの話ではなかったかと思えます。やっぱり桑原はかなりまちづくりに対する想いを皆さん持ってくさっているんで、淡路ヶ峠の道路の整備も実際にできていると思っております、本当皆さんに敬意を表したいと思えます。また今日は愛媛大学の皆さん、東雲女子大学・短期大学の皆さんにもご参加いただきました。若い方に参加していただくというのはすごく大事なことです。皆さん方が将来の日本を背負うわけですから、将来の日本を担うわけですから、ぜひとも自分なりにまちづくりを考えて、地方のことを考える、その集まりが国のことですから、ぜひとも日ごろからまちづくりについてちょっとでも意識してもらって、参加意欲を持ってもらわないと、この国はよくなれないと思えます。さまざま申し上げさせていただきましたけれども、途中で申し上げたとおり、市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければならないと思っておりますので、これからも敷居を高く考えないでできるだけ身近でありたいと思っておりますので、これか

らもさまざま皆様のお力添えをよろしくお願いいたしまして今日のタウンミーティング終わりとさせていただきます。どうぞこれからもよろしく  
お願いいたします。ありがとうございました。

— 了 —